



GRIT（グリット）～努力は才能を凌駕する①



現在でも関心が高いですが、4～5年前に「やり抜く力（GRIT）」という言葉が注目されました。やり抜く力（GRIT）とは、「自らやり遂げると決めたことに対して、困難にも屈せず、継続的に努力して成果を上げること」を指します。

最近、「若手の継続する力、やり抜く執着心が落ちている」というお話をよくうかがいますが、これは、若手だけの問題ではなく、自分も含め、全世代に共通する課題だと思います。

そうなった要因ははっきりとはわかりませんが、便利な世の中になったということが大きく関係していると思います。現在はWEBの検索でほとんどのことが調べられますし、そのWEBページを見れば、書籍を読まなくても、自分に必要な情報を得ることができます。楽にいろいろなことができるようになると、泥臭く、愚直に粘り強く、長期間一つのことに打ち込むことに逡巡してしまうのは、仕方が無いことかもしれません。

1. GRIT（グリット）とは

GRIT（グリット）とは、先ほど説明したように、一言でいうと「やり抜く力」ですが、さらに細かくその要素を因数分解すると、以下の4つとなります。「Guts」（闘志）、「Resilience」（粘り強さ）、「Initiative」（自発）、「Tenacity」（執念）一つずつみていきましょう。

① Guts（闘志）

Guts（ガッツ）は前向きで熱い気持ちと言い換えることができます。人を動かす原動力となるマインドです。このような気持ちを瞬間的に持つことはそれほど難しくありませんが、ガッツを継続することは困難です。熱い気持ちを継続するためには、正しく前に向かって進めるように目標を立てることや、自分を勇気づけてくれる上司・先輩・同僚などの存在が重要となります。

② Resilience（乗り越える力）

Resilience（レジリエンス）は「困難にぶつかっても、しなやかに回復し、乗り越える力」のことです。このようなマインドを持っていると、何が起きても柔軟に対応し、物事を継続することができます。

③ Initiative（率先力）

Initiative（イニシアチブ）は、自分から物事を積極的に行う率先力のことです。何事も成長できるチャンスだと捉える楽観性や、自分で自分の限界を作らず、チャレンジする気持ちが率先力を生み出します。

④ Tenacity（粘り強さ、執念）

Tenacity（テナシティ）は、粘り強さ、執念です。「自分がこれをやり遂げなければならない」「断られても諦めない」「相手に嫌な顔をされてもひるまない」といった断固たる決意（determination）が粘り強さや執念を産み出します。

2. やり抜くためには持久力が重要

ここで、ほんの少し昔を振り返ってみましょう。今より少し前、残業しても良い時代がありました。毎日17時過ぎに出先からオフィスに戻り、お客さまに聞いたことをまとめたり、新しく提案する資料を作ったり、時にはカップラーメンを食べながら同僚と意見交換したりもしました。「まだやってるのか？あんまり根を詰めるなよ」などと上司に言われながらも、思う存分試行錯誤し、納得するまで考え、実行し、結果が出れば評価される。頑張っていることがわかりやすく体现でき、達成感を感じられる働き方ができた時代です。

しかし、業績低下による残業代の削減や、働き方改革による長時間労働の抑制が進み、いまやり切った達成感を感じることが難しくなっているのではないのでしょうか。そのような状況下でモチベーションを下げずに働くためには、文化祭の前日のような瞬発的な盛り上がりではなく、持続的に達成感を感じるやり方に変えていく必要があります。

まず、達成感とは、残業をしたり徹夜をしたりすることで得るものではないと思考を転換するところから始めましょう。短期集中的な頑張りではなく、長期的な計画で目標に向かって努力し、確実に達成する地道な頑張り方にシフトします。必要なのは瞬発力よりも持久力です。

コツコツとした努力が素晴らしいと誰もが知っていても、実際に継続できる持久力を持った人はそれほど多くありません。年初に「今年こそ〇〇をやるぞ!」と目標を掲げても、春頃にはその気持ちも薄れ、夏は言い訳を作って先延ばしし、そのうちなし崩しになる……。 「3日坊主」という言葉があるくらい、継続することは難しいのです。

株式会社インソース より

【M&A速報、コラムを日々配信!】 X (旧Twitter) で情報を受け取るにはここをクリック

【M&A Online 無料会員登録のご案内】 6000本超のM&A関連コラム読み放題!!
M&Aデータベースが使い放題!!登録無料、会員登録はここをクリック